

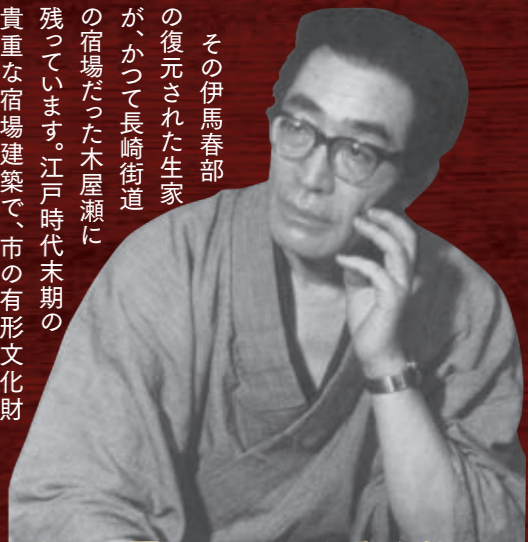
# 伊馬春部

木屋瀬が育んだ

戦後大衆文化の巨人

伊馬春部(本名・高崎英雄)は1908(明治41)年、醤油醸造業などを営む商家の長男として鞍手郡木屋瀬町(現八幡西区木屋瀬)に生まれました。國學院大學で折口信夫(釈迺空)に師事し、卒業後は井伏鱒二のもとで太宰治、檀一雄らとも親交を深めました。昭和7年、劇団「ムーランルージュ新宿座」文芸部に所属するや社会風刺に富む洒脱な作風で人気を博し、退団後は日本初のテレビドラマ「夕餉(ゆうげ)前」の脚本も手がけています。

昭和22年、NHKの連続ラジオドラマ「向う三軒両隣り」が戦後まもない社会に笑顔と活力を与え、映画も大ヒット。その一方で空想的色彩を帯びた作品群を発表するなどさまざまな手法に取り組み、独自の世界を築きました。演劇、ラジオ、映画、テレビで活躍した放送黎明期のパイオニアとして、また昭和の娯楽を担った偉大な劇作家として、春部は高い評価を受けています。



その伊馬春部の復元された生家が、かつて長崎街道の宿場だった木屋瀬に残っています。江戸時代末期の貴重な宿場建築で、市の有形文化財にも指定されています。春部の遺品などとともに一般公開されており、歴史的な建築様式とともに、戦後日本の大衆文化の魅力にも触れることができます。



春部の生家、旧高崎家住宅

歌人としても知られた伊馬春部(北九州市立文学館所蔵)

# 高倉健

八幡っ子のDNA・日本映画界の至宝

平成26年11月10日、人々は深い悲しみと喪失感に沈みました。名優・高倉健逝去。

1931(昭和6)年生まれ。高倉健(本名・小田剛二)は八幡市(現八幡西区香月)で育ちました。中学時代にアメリカ文化に触れ、小倉の米軍司令官の息子と知り合って英語を学びます。県立東筑高等学校全日制課程商業科に進み、英会話部を作り、明治大学商学部商学科へ。

貿易商を目指したアメリカ志向の青年は、東京でスカウトされ、やがて日本の男の美学を体現する銀幕スターへと育ってゆきます。

『網走番外地』シリーズ、『昭和任侠伝』シリーズなどで看板俳優となった彼でしたが、切った張ったの役柄に飽き足らず、昭和51年には東映を退社。



高倉(小田)青年が通った県立東筑高校

眼で語れる名優だった(毎日新聞社提供)



フリー転向後は『八甲田山』『幸福の黄色いハンカチ』『鉄道員(ぽっぽや)』などの重厚な演技で国民的大スターの地位を確立しました。平成25年、文化勲章を受章。

そんな高倉健の心の原風景は、ここ八幡西区での青春時代にありました。男臭さや実直さも、古きよき八幡っ子の一方の特徴といえるでしょう。北九州市でもロケが行われた『あなたへ』が最後の作品になったことに、えにしを感じずにはられません。



八幡西区

# 偉人

八幡西区の歴史や文化に  
大きな足跡を残した先人たち。  
その人生と、郷土とのゆかりを訪ねる旅です。

# 探訪

たともいわれています。しかし、関ヶ原の合戦はわずか一日で終わり、夢はついでました。官兵衛親子の戦勲を認めた徳川家康は、長政を中津12万石から一躍、筑前52万石に封じました。

**黒田二十四騎と黒崎城代・之房のまじりく**

黒田官兵衛・長政親子に仕えた家臣で、特に軍功を残した重臣たちを「黒田二十四騎」と呼びます。八幡西区黒崎の春日神社には、官兵衛、長政とともに彼ら24名も合祀されています。黒田二十四騎を神として祀るのは全国でここだけです。そして、二十四騎中でも栗山善助、母里太兵衛と並んで「長政の三家老」と呼ばれたのが、官兵衛の父・職隆の代から黒田家四代に仕えた名将・井上周防之房でした。

黒田家が筑前に入国したのち、井上之房は、豊前国小倉藩細川家領との国境を守るため、黒崎城代となりました。之房は防備に気を配るだけでなく、藤田・熊手などの諸村を整備して城下町の発展に力を注ぎ、黒崎のまちの礎を築きました。1615(元和)年、一國一城令によって黒崎城が

廃城になると、陣原村(現八幡西区陣原)に屋敷を構え移り住んでいます。

黒崎を代表する祭りに「黒崎祇園山笠」があります。この祭りは、之房が岡田宮・春日神社に須賀大神を合祀し、その祭礼に山笠を制作したのが始まりといわれています。

官兵衛の系譜を引く歴史遺産のまち、黒崎。黒崎城址や之房の隠居所跡に建つ「舎月庵」、栗山善助の子・大膳が手がけた「堀川」など、周辺には関連の史跡が多く見られます。勇壮な黒崎祇園太鼓の音色にも、幾多の合戦で黒田勢が用いた陣太鼓の響きが重なるようです。



舎月庵。(見学不可) 井上周防之房が移り住んだ屋敷跡



黒田如水像(福岡市博物館所蔵)

## 九州を駆け抜けた官兵衛の夢と野心

官兵衛こと黒田孝高(よしたか)は1546(天文15)年、播磨国姫路城主の嫡男として生まれました。類まれな才能を持ち、戦国時代に豊臣秀吉

の「軍師」として活躍、秀吉の天下統一を支えました。1586(天正14)年の秀吉の九州平定戦では軍監として九州に初上陸。毛利・吉川・小早川軍とともに小倉城を攻撃、開城降伏させています。中津城主となった官兵衛は隠居後、剃髪して如水の法名を名乗り、家督を息子の長政に譲りました。1600(慶長5)年、関ヶ原の戦いでは兵の大半を長政に与え、家康につき従わせます。官兵衛自身は豊後国石垣原(大分県別府市)の戦いで大友義統に勝利すると九州を席卷、一説には彼はこのとき、関ヶ原の混乱に乗じて自らが天下取りを狙った



官兵衛、長政と二十四騎を祀る春日神社

## 黒田官兵衛と井上之房

黒崎の礎を築いた軍師の系譜

黒崎城が



絹本着色黒田二十四騎図 井上周防之房(春日神社所蔵)